



「共創」、そして「努力」

校長 高橋 泰三



学校行事の中でも特に大きな二つの行事を見事にやり切った皆さんへ、本当にお疲れ様でした。皆さんにとって満足のいく取組になったでしょうか。

なんでもそうだと思いますが、取り組んだ後に次の「取組」（行事とは限りませんよ）に向けて、「総括」をすることは自分や集団にとってとても大切です。良かった点、不十分だった点について落ち着いた気持ちで、見方を変えたり（多面的）立場を変えたり（多角的）して振り返って総括をしてください。

私は前号で、『合唱にしても劇にしても、何を目標にするかは学級毎に違うと思います。が、「気付かなかった仲間の姿発見」や「気付かなかった仲間の姿を発見できる自分発見」を少し意識して取組をすすめてみてはいかがでしょうか。これが一つでも「できた」と思えると、文化祭後の学級での生活が、それまで以上に仲間のことをお互いに思いやれる「居心地のいい学級」になって「思い出深い学級生活」が形作られるようになるかもしれませんよ。』と書きましたが、いかがでしたか。「発見」できましたか。

できた、としてもう一つ付け加えたいことがあります。それは「人への感謝の気持ちを持つこと」です。文化祭で言えば、指揮をした人、伴奏をした人、パートリーダーをした人、ナレーションをした人、クラスメート、小道具を作った人、大道具を作った人、衣装を考えた人、背景を描いた人、曲を選んだ人、照明をした人、舞台上演した人、監督をした人、様々調整をした人、全体を引っ張った人、先生たち、他にも役割があったかも知れませんが、たくさんの人の「おかげ」で一つの取組ができました。一人では到底できないこと、やり切れると思えないようなことも仲間と取り組むことで成し遂げられたこのような経験（もちろんそれは今後も様々な過程で経験することでしょうから今回に限ったことではないとは思いますが）は私たちにとって一つの財産になるものだと思います。

そこで思い出すのが「共創」という言葉とそれを言った人のことです。有名な話なので知っている人は多いかも知れませんが、少し紹介したいと思います。

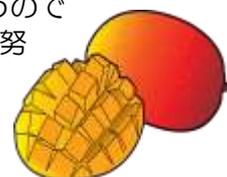
マンゴーのこと、知ってますか？

実はお馴染みの赤いマンゴーは「アップルマンゴー」と言って、島根県出身の日本人が開発したものです。彼は小学生時代に台湾の小学校へ転校しました。台湾で高校時代を過ごし、なんと卒業制作でマンゴーの品種改良に取り組むという研究過程で開発したのです。この人は農業に従事するわけではなく、日本に戻り京都の大学で電気工学を学びました。

この人こそ電子工学の科学者で工学博士、シャープ株式会社（SHARP）の副社長となる佐々木 正（ささきただし）さんです。佐々木さんは大学卒業後には様々な国で研究をし、複数の会社で務めた結果、のちにシャープ株式会社となる会社で働くことになりました。佐々木さんはポケットに入る超小型電卓の開発に携わったことでも有名です。電卓？と思ったかもしれませんが、当時は計算機であり教室のほとんどを占めてしまうくらい大きな機械が必要なものでした。他にも、アポロ12号の着陸船に部品が採用されたり、国産第一号の量産型電子レンジの製品化にも携わったり、現代の私たちの生活がとても便利で豊かなものになっている礎（いしずえ）を作った人であるとも言えるのではないかと思います。

この佐々木さん、実は他にも、二人の人の恩人であるとも言われています。それは、ソフトバンクグループ株式会社代表取締役会長兼社長の孫 正義さんとアメリカのApple社創業者のスティーブ・ジョブズさんです。（どんな恩だったのか、ここではこれ以上書けませんので、興味のある人は調べてみてくださいね。）佐々木さん曰く、「分からなければ聞けばいい。持っていないなら借りればいい。逆に聞かれたら教えるべきだし、持っているものは与えるべきだ。人間、一人ですることなどたかがしれている。技術の世界はみんなで共に創る「共創」が肝心だ」と。また、人に感謝をする気持ちが無いといいものは出てこない、というようなことも言っています。

圧倒的な存在感を放った佐々木さん、これは想像ですが大変な努力をして学んでいたと思うのです。仲間と共に何かに取り組む素晴らしさを知った皆さん、人への感謝の気持ちと自分自身の努力を続けることを忘れないで欲しいなと、秋深まる11月の初めにあたり考えています。



体育大会のようすを紹介します





1年生合唱



2年生演劇



3年生演劇



美術作品展示



